



尾山台小だより

7月号

学校教育目標

「確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童の育成」
～明るい子、考える子、たくましい子～

〔尾山台小ホームページ〕<http://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool>

または、「上尾市」ホームページ→「上尾市立幼小中学校」→「尾山台小学校」をクリック

ポジティブな行動支援 (PBS) ・認めて褒めて伸ばす

校長 熊坂 由美子



早いもので、1学期も残り3週間ほどになりました。暑い日が多くなってきましたが、子供たちは元気に登校しています。先日の授業参観では、日頃の学習の様子の一瞥をご覧いただき、懇談会も開くことができました。ご参加ありがとうございました。

また、おや小応援団の方々には、1学期も様々な場面でお世話になっています。毎日の登下校の見守り、図書館整備、読み聞かせ等、いつもありがとうございます。本年度は環境美化ボランティアの方々が、紫陽花の手入れを重点的におこなってくださり、散歩中の地域の方も足を止めて、紫陽花を写真に収める姿も見られます。綺麗な環境造りに感謝いたします。

さて、先月号では「自立した学習者」について取り上げました。今回は「ポジティブな行動支援 (PBS)」について書きたいと思います。

「ポジティブな行動支援 (PBS)」とは、当事者のポジティブな行動を肯定的、教育的、予防的な方法で支援するための枠組みと言われています。少し難しい話になりますが、個人の行動のみを標的とするのではなく、その周囲の人々やそれらを取り巻く様々な状況も分析とアプローチの対象と捉え、持続的な成果を生み出すための仕組みづくりを目指します。1990年代に障害のある方の行動支援の枠組みとして米国で誕生しました。その後、オーストラリア、ノルウェー、カナダなど広く学校教育にも取り入れられ、近年、日本でも注目されています。

本校では、先日、PBSについて講師の方を招聘して教職員研修を行いました。PBSとは、子供たちに望ましい行動を学ばせるために、あるいは問題行動に対して、罰を与えたり叱ったりするのではなく、できていることを認め、できている子を褒めて、子供のためになる適切な行動を増やしていきます。その際、具体的・肯定的な言葉をかけること、学校全体で取り組むこと (スクールワイド PBS) がポイントになります。例えば、「〇〇ができていて、すごいね!」「〇〇さんは、チャイム着席をされていて、いいね!」「元気な挨拶ができて気持ちがいいね!」などです。子供同士でも褒め合えると、さらに広まりやすくなります。

また、伸ばしたい行動も具体的な言葉で伝えます。話を聞くときに「しゃべらない」を目標にしてしまうと、「あれもダメ」「これもダメ」とモグラたたき状態になりかねない上、子供のためにならない可能生があります。そうではなく、「あいづちをうつ」「最後まで聞く」「相手の顔を見る」など、具体的に示していきます。

学校は「できて当たり前 (できていることをわざわざ認めたり褒めたりする必要はないだろう)」という価値観から「できたことを認める」価値観への転換期にあります。本校では今後も研修を積み、子供たちの支援体制を強化してまいります。ご家庭や地域でも「望ましい行動を褒めること」を実践いただくと、より効果的です。よろしく願いたします。